

緑の相談所だより

No.126

財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑の相談所
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 電話 0166-65-5553

発行：平成 22年10月1日

講習会のご案内

「神楽岡公園自然観察会」-秋の紅葉を楽しもう-

とき 平成22年10月17日(日) 小学生は保護者同伴
午後 1:30~3:30 定員 30名
講師 旭川みどり21の会 代表 成田一芳さん

「庭木の冬囲い」-実習- *緑の相談所

とき 平成22年10月23日(土)
午後 1:30~3:30 定員 20名
講師 旭川市公園緑地協会 職員

「落ち葉で作るかんたん堆肥作り」-実習-

とき 平成22年10月24日(日)
午後 1:30~3:30 定員 30名
講師 旭川市緑の相談所 相談員



「庭木の冬囲い」*永山中央公園 ☆常磐公園

とき 平成22年10月*30日 ☆31日
午後 1:30~3:30 各20名
講師 旭川市公園緑地協会 職員

「押し花年賀状を作ろう」-実習- ②

とき 平成22年11月21日(日) 500円
午後 1:30~3:30 定員 20名
講師 つくしんぼ押し花グループ
代表 加藤 迪子さん

「クリスマスからお正月の寄せ植え」-実習- ②

とき 平成22年12月5日(日) 2,000円
午後 1:30~3:30 定員 20名
講師 フラワーマスター 山本 裕美さん



展示会のご案内

「温室の植物写真展」

出展：道新文化センター写真スクール
10月1日~24日

「旭川市の公園絵画展」

出展：旭川市公園緑地協会
10月26日~31日

「木の実・草の実写真展」

出展：神田 亘さん
11月20日~12月19日

展示会の初日は準備のため、ご観覧は午後からです。

4月~10月は第2・第4月曜日が休館日です。

11月~3月は毎週月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

※各講習会のお申込み受付は前月の20日から、定員になり次第締切です。



お申込み・お問合せ

(0166)65-5553

10月の園芸作業

1 草花・鉢物・球根類

低温に耐えるシクラメン、クンシランなどは、できるだけ戸外で管理しましょう。フクジュソウなどの宿根草の株分けと植え替えをする場合は上旬までに行いましょう。カンナ、ダリア、グラジオラスなど春植え球根類を掘上げ7～8℃程度の場所で貯蔵しましょう。特にアマリリスは葉が枯れてから室内に入れ凍結しない場所で管理しましょう。

2 花木類・庭木類・果樹類

低温に耐えるクチナシ、アザレアなどは霜よけして管理しましょう。特にアザレアは乾燥させないよう水やりに注意しましょう。モミジ、ブドウは落葉が終わってから剪定し、春の剪定はできないので注意しましょう。

3 多肉植物・サボテン類

アロエは日の当たる暖かい室内の窓辺に置き、水やりは控えましょう。カネノナルキは無暖房の室内の日当たりの良い場所に置いて水やりは控えましょう。シャコバサボテンは短日処理を行いクリスマスころに開花させましょう。イースターカクタス(カニサボテン)の開花は4～5月です。それまでは水やりを控え、肥料は中止しましょう。サボテン類の親株は下旬ごろからは水やりや肥料は中止し休眠させましょう。

4 洋ラン類

秋から冬に開花するカトレアはシースが出るので支柱を立て誘引しましょう。開花株は18℃程度で管理すると花もちが良いでしょう。

シンビジウム、デンドロビウムの親株は日当たりの良い戸外で管理しましょう。特に、デンドロビウムはバルブがアメ色になってから室内に入れ、13℃以下の寒さに必ず2週間以上の低温に当て花芽をつけましょう。

11月の園芸作業

1 鉢物類

クンシランは8～10℃程の低温に約60日間当てましょう。

サイネリア・カルセオラリーヤ・プリムラ類、シクラメンなど低温で育てている場合でも乾いたら朝方10時ごろにたっぷり水やりをし、肥料は置肥を月1回と1,000倍の液肥を7～10日に1回与えましょう。

2 花木類・庭木類

アザレアの花が咲いている鉢は暖かい室内で水と肥料を与え新梢を伸ばしましょう。ハイビスカスは水と肥料が不足すると落葉が目立つので注意しましょう。採種したツツジ、シャクナゲなどは室内、温室でまきまきしょう。フジは上旬までに今年伸びた枝(つる)3～4(5)節のところを剪定しましょう。

3 多肉植物・サボテン類

サボテンは必要な場合は植え替えや株分けができます。また、伸びすぎた茎を途中から切り(胴切り)取り、挿し木すると良いでしょう。クジャクサボテンは無暖房の室内で水やりは控えめにし、肥料は中止しましょう。サンセベリアをはじめサボテン類は低温に注意し水やりは控えましょう。

4 洋ラン類

カトレアはシースあるいは花芽を持った株は10℃以上で管理しましょう。蕾の膨らみが目立つ株や開花した株はシリンジを中止しましょう。シンビジウムの花芽がつきそうな株は日中温度20℃を超えないよう管理しましょう。デンドロビウムはシンビジウムと同じで水やりは控え、温度差が目立ち室温が高いと花芽がつかず高芽(葉芽)が伸びてくるので注意しましょう。

植物の病害虫

その9 「ハマキムシ類」

リンゴを加害するハマキムシ類として20余種が知られています。主な種類として、幼虫で越冬するものはリンゴコカクモンハマキ、リンゴモンハマキ、トビハマキが、卵塊で越冬するものにミダレカクモンハマキ、カクモンハマキがあります。

1 加害植物

ハマキムシはナシ、サクランボ、モモ、スモモ、小果樹類など多くの果樹を食害します。リンゴコカクモンハマキはバラ科、ヤナギ科、モクセイ科、カンパ科、マメ科など17科36種以上、ミダレカクモンハマキはバラ科果樹類のほか、12科40種以上、リンゴモンハマキはバラ科植物をはじめ4科18種以上、トビハマキはバラ科、ヤナギ科、カバノキ科など多種を加害します。

2 被害と生態

ハマキムシ類は20数種類以上あって、年に1～3回発生をくり返します。越冬は2～3齢幼虫が樹幹部の粗皮下、枝の分岐部、枝についた枯葉の下などで（リンゴコカクモンハマキなど）、卵は樹幹や樹枝上に産み付けられた卵塊で（ミダレカクモンハマキなど）行います。

越冬した幼虫（リンゴコカクモンハマキ）は4月下旬ころから活動を始め、芽や葉、新梢先端を食害します。また、7月上旬ころからは次の世代の幼虫が葉をつづって、近くの果実の表面を浅くなめるように食害するので、いわゆる「ナメリ果」となります。

幼虫で越冬する種類は年に2回発生しますが、成虫の発生時期は種類によって異なります。リンゴコカクモンハマキの成虫の発生最盛期は6月下旬および8月中旬で、リンゴモンハマキ、トビハマキは7月中旬および9月上旬です。

越冬した卵塊は（ミダレカクモンハマキなど）5月初めころから孵化します。幼虫は新梢葉をつづって、落花期のころに老熟するので花や幼果を食害します。加害最盛期は開花期～摘果前後までです。年1回の発生で、成虫の発生期は7月上旬～8月上旬で、その後産卵された卵はそのまま越冬します。

3 防除

- 1) 粗皮の多い品種では、発芽前に粗皮削りを行い、越冬幼虫および越冬卵（ミダレカクモンハマキなどの越冬卵塊は白色で目立ちます）とともに焼却・埋没します。
- 2) せん定した枝は幼虫の活動前に園外に搬出して処分します。
- 3) 春先の薬剤散布適期として幼虫で越冬した種類は開花前、また卵塊で越冬した種類は開花後に防除を行います。
- 4) 樹冠散布はおおよそ4月下旬～6月上旬、7月中旬～8月中旬に行いません。

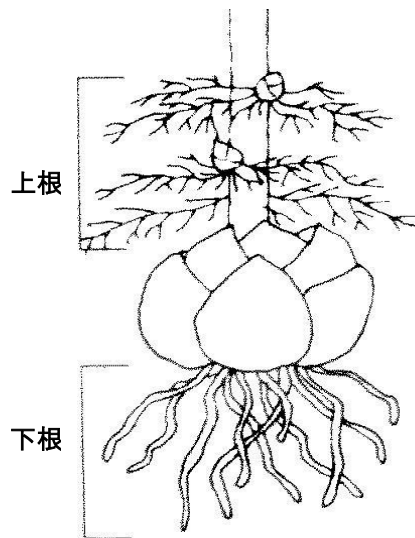
ユリの植え替え

9月の下旬を過ぎれば植え替えの時期となります。ユリは毎年植え替える必要はありません。

植えて最初の開花期より、2年目の開花期のほうが丈も高く、花数も多くなるのが普通です。その原因は下根にあります。

植えた年より2年目のほうが下根が多くなっており、生育が前年から引き継がれているためです。

しかし、植え替えをしないと土壌の劣化等で生育が徐々に衰えてきます。一般に3～4年に一回の植え替えが必要と云われますが、生育が衰えたと感じたときに行えば良いでしょう。



植える場所

一度植えると数年は、そのまま育てられるので植え床作りは大切です。

土壌は排水が良く、適度な湿りがあり、乾燥する所は避けたほうが良いでしょう。

植え付け前に堆肥・石灰を施用し、施肥は緩行性肥料を基肥として早めに土と攪拌しておきます。

連作は嫌うので同じ場所への植え付けは避けます。

植え方

ユリは球根の上に、水分や養分を吸収する上根が出ます。そのため植え付けの深さは、球根の高さの3倍位の深植えとします。植える間隔は、球根の幅の2～3倍の範囲が適正です。

球根は乾燥させないように扱い、下根は枯れた部分だけ取り除き植え付けします。

展示室の植物 (33)

クロトン(クロンノキ、ヘンヨウホク)

トウダイグサ科 コディアエウム属

原産地は南アジア、マレー半島。葉に黄色や赤、橙など鮮やかな斑が入り、葉の形も広葉、長葉、細葉等様々である事から「変葉木」ともよばれます。

寒さには弱く、10℃以下では落葉しますので、冬は室内で育てましょう。

